
オンラインファイト

D a r k N e s s

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オンラインファイト

【Nコード】

N2746F

【作者名】

D a r k N e s s

【あらすじ】

主人公、新井悟は『オンラインファイト』にハマっていき、ゲームの真相に迫る！！

プロローグ

西暦20XX年

日本ではあるゲームが流行っていた…それが……

『オンラインファイト』

だが、その裏では…

主人公、新井 悟はそのゲームにハマっていき、ゲームの真相へと近づく……

チリリリリリリン…チリリリリリリリン…カチッ

悟『ふぁーあ……ん！？もうこんな時間かよ！！』

俺は新井 悟、高校2年。

通っている高校は超エリート校。

俺はIQ180の天才だ。小さい頃から勉強勉強で友達と遊ぶ暇がなかった。

だけど親は大手企業の社長。

欲しいものはなんでも買って貰った。

ゲームなんかも買って貰ってた。勉強の合間にやっていた。

クリア出来ないゲームなんて一つもなかった。

だからこれからもずっとそうだと思っていた…

悟『やっぱ遅刻だ！！』

時計は8時45分をまわっていた。

教室に入ると案の定…

担任『新井！遅刻だぞ！！早く席につけ！』

この人は担任の橋本。

悟『すいません。』

教室内がざわめき始める。

橋本『静かに！！』

どうやら朝のHRだったようだ。

橋本『今日の予定は…』

???『また遅刻かよ悟』

こいつは唯一の親友、竹本 剛史。

俺には友達と呼べる奴は剛史しかいないのだ。

頭もいい、価値観も同じ、そんな気の合う奴は剛史だけ。

悟『朝は苦手なんだよ。』

剛史『授業の前で良かったな』

悟『ああ』

橋本『これで朝のHRを終わる』

キンコーンカーンコーン、キンコーンカーンコーン……

第一話：オンラインファイト

く昼休みく

剛史『悟、オンラインファイトって知ってるか？』

悟『ああ、今流行ってるバーチャルゲームだろ？』

剛史『そうだ。悟、一緒に始めてみないか？』

悟『勉強あるしな。』

剛史『そこをなんとか！たのむ！』

悟『ん〜……まっいつか。』

剛史『よっしゃあ！じゃあ学校終わったら行くっぜ。』

悟『いいけど何処にあるんだ？』

剛史『普通にゲーセンにあるみたいだぜ。』

悟『マジかよ…んで値段は？』

剛史『それが……一回5000円なんだ……』

悟『一回って基準は？』

剛史『2時間……』

悟『なら安いもんだろ！』

剛史『悟は金持ちだからいいけど俺には大金だよ……』

剛史は頭はいいものの家は貧乏。
だから、将来稼げるように勉強してるのだ。

悟『大丈夫。俺が奢る！』

剛史『なんか悪いよ……』

悟『大丈夫だって。いくらでも奢るよ！！』

剛史『ごめんな…俺から誘って…』

悟『どうせ俺らにクリア出来ないゲームなんてないんだからすぐに飽きるって!』

剛史『それが、激難らしいぜ!』

剛史のテンションが上がった。無論俺も。

悟『やりがいがあっていいじゃん!』

剛史『そつだよな!』

二人の期待が高まった。

キンコーンカーンコーン、キンコーンカーンコーン…

剛史『放課後行こうな!』

悟『おう!~!』

～放課後～

悟・剛史『行くか!』

ゲーセンに向かう途中、『オンラインファイト』のチラシを何枚も見かけた。それだけ流行ってるのだ。

悟『入るか!』

剛史『ああ、楽しみだ!』

ゲーセンに入るとわかりやすい場所に何台も『オンラインファイト』の機械が並んでいた。

剛史『これが…』

悟『みたいだな…』

すると…

従業員『どいてください!』

ダランとした人を運んでいる。

悟『命の危険があります。気を付けてお楽しみ下さい。って書いてあるぞ……』

剛史『どうする?……』

悟『やるに決まってるだろ!』

悟は死なない自信があつた。クリア出来ないゲームなんて一つもなかったからだ。

悟『俺らにクリア出来ないゲームなんてないだろ!』

剛史『だよな……』

悟『行こうぜ。』

剛史『あ、ああ』

カウンターに着いた。

悟『オンラインファイトやりたいんですけど。』

従業員にたずねた。

従業員『では、こちらの注意書を読んだ上でご参加下さい。』

『用意が出来ましたらお申し付け下さい。』

悟『はい!』

剛史『大丈夫かな?…』

悟『大丈夫だつて。』

注意書を読んでいくと、どうやら金はゲーム終了後に払うようだ。

悟は店側も馬鹿だなと思った。何故なら、死ぬ危険性があるのに終了後に払うということは、死んだら払わなくていい、ということになるからだ。

注意書も読み終わり、悟は

悟『終わりました!』

と答えた。

従業員『ではこのカプセルに入ってください。』

2人は中に入った。

従業員は

従業員『椅子に座って、これを付けてください。』

と言ってプラグの沢山付いたヘルメットのようなものを渡した。

従業員『これには麻酔針が付いており、私がスイッチを押すと貴方は眠り、バーチャルの世界へといくことになります。』

次々に説明をしていく。

従業員『ゲームの中では、モンスター、自分以外の相手と戦闘を行なっていたきます。』

剛史『負けたらどうなるんですか？』

従業員『現実世界で死亡となり、ヘルメットから電流が流れます。』

従業員『ゲームの中では、ショップ等で装備を揃えてください。』

従業員『終わる際には、初期装備にある、【幸運の腕輪 L V 1 の赤いボタンを押してください。尚、幸運の腕輪は外せませんのでご注意ください。では、お楽しみ下さい。』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2746f/>

オンラインファイト

2010年10月8日13時30分発行